

C-2

側方歯群交換期の空隙型上顎前突を機能的顎矯正装置プレオルソ・タイプ I で改善した 2 例

○安藤匡子
(あんどう 歯科小児歯科 福岡市)

【目的】

演者は、熱可塑性を有するシリコン由来の材料を用いた装置「プレオルソ・タイプ I」(株フォレストワン)を用いて側方歯群交換期の上顎前突に用いてその有効性を報告した。今回は、側方歯群交換期の空隙型上顎前突に「プレオルソ・タイプ I」を用いて短期間に比較的良好な状態に改善した症例を報告する。

(症例 1) 患児：8 歳 11 か月女児

主訴：上の歯が出ている

口腔内所見：Hellman の歯齡 III B、アングル II 級、異常嚙下癖、overjet +6.5mm、overbite +3.1mm
治療および経過：プレオルソ・タイプ I を装着し、約 4 週間毎に調整を行った。5 か月後には overjet +3.7mm、overbite +2.2mm へ、セファロ分析では U-1 to SN Pl.、U-1 to FH Pl. 及び L-1 to Mand. の変化が著明であった。Interincisal は変化を認めなかった。

(症例 2) 患児：11 歳 4 か月男児

主訴：下の歯がでこぼこで出っ歯が気になる。

口腔内所見：Hellman の歯齡 III B、アングル I 級、異常嚙下癖、overjet +4.0mm、overbite +3.0 mm
治療および経過：プレオルソ・タイプ I を装着し、約 4 週間毎に調整を行った。5 か月後には、overjet +1.8mm、overbite +1.9mm へ、セファロ分析では、Interincisal、U-1 to FH Pl.、U-1 to SN Pl. の変化が認められた。

【考察および結論】

症例 1 では、下顎骨の前方方向への成長と、上顎前歯の舌側傾斜と下顎前歯の頬側傾斜による被蓋の改善にいたったと推測される。

症例 2 では、U-1 to SN Pl. 及び U-1 to FH Pl. は減少しており、更に、L-1 to Mand も減少が認められる。歯軸の改善は認められるものの下顎骨の下方成長の傾向が認められるため、今後の注意深い経過観察が必要と思われる。

C-3

矯正用ミニスクリューを用いて治療した overjet の大きい Angle class II div.1 症例

○黒田國康
(くろだこども 歯科矯正歯科)

【目的】

歯科矯正用ミニスクリューを用いた歯列矯正治療は、ごく小さなインプラントを顎骨内に埋入し、それを固定源として歯牙移動を行う治療法である。従来の治療法では困難な歯牙移動が可能になり、より良い治療結果をもたらし、治療期間の短縮が可能とする。

今回矯正用ミニスクリューを用いて治療した overjet の大きい Angle class II div.1 症例を報告する。

【方法】

初診時年齢 10 歳 11 か月の男児。歯並びを気にして来院。下口唇の巻き込み咬みおよび口呼吸があり、食事中に口の中を咬んでしまうことがよくあった。大臼歯関係は class II で、前歯部 overjet は、約 11 mm であった。

【結果】

上顎頬側の第二小臼歯と第一大臼歯間に矯正用ミニスクリューを埋入し、脱落や感染の有無を考慮し 1 か月程度経過観察を行った後上顎第一小臼歯および下顎第二小臼歯を抜歯し、マルチブラケット装置を装着して治療を行った。治療後の前歯部 overjet は、約 3 mm に改善し、治療期間は 2 年 8 か月であった。

【考察】

矯正用ミニスクリューを用いることによりヘッドギアを用いず、顎間ゴムの使用も最小限にして、治療を行うことができた。今回、ヘッドギアの協力が難しいことが予想されたため、矯正用ミニスクリューを用い、10 歳 11 か月という低年齢であったが、途中の脱落は起こらなかった。